

研究主題 喫緊の教育課題に対する実践的な教育内容・方法について ～ 喫緊の教育課題及び実践例について理解を深め各学校における学校経営に生かす ～

I 団体の概要

東京都知的障害特別支援学校長会主催研修会は、東京都立特別支援学校(知的障害)の校長45名で構成されている。毎月行われている校長連絡会と同日に研修会を開催し、喫緊の教育課題について共通理解を図っている。併せて喫緊の教育課題に対する各校の先進的な実践事例について情報交換を行い各校における学校経営に生かしている。

II 研修の目的

学校を取り巻く環境は急激に変化し、喫緊の教育課題が山積している。課題解決を図るため、管理職のリーダーシップの下、各学校において、課題を共通理解し、具体的な対応策を検討して組織的・機動的に実施していくことが求められている。

本団体では、喫緊の教育課題を学校間で共有するとともに、教育課題に対して先進的な取り組みを行っている学校が具体的な実践内容・方法を紹介し、本会員が、その事例を参考に各学校の教育活動の充実に図ることを目的としている。

III 研修の方法

東京都の研究指定を受けている学校を中心に、毎月1校から2校が具体的な課題と課題解決に向けた取り組みを本研修会で報告する。全体会で、質疑応答をして理解を深める。その後、学校に設置されている学部ごとに3班に分かれて、報告内容に基づきさらに深めた情報交換を行い、その内容を各学校の学校経営に生かしている。

IV 研修内容

◆ 実践報告（実践報告・情報交換・実践研修・還元研修）

回	実施日	テーマ
1	6月3日(火)	緊急的な増学級等への対応について
2	7月1日(火)	教育相談機能の充実、スクールカウンセラーの活用
3	8月4日(月)	文字だけに頼らない、分かりやすい表現の仕方 や工夫
4	10月7日(火)	副籍制度の充実による交流活動の推進校(事業報告)
5	11月4日(火)	スクールバス運行上の課題解決とスクールバス安全運行支援員の活躍等について
6	12月2日(木)	人材育成、授業力向上に向けた取組について
7	2月12日(木)	障害の程度が重い児童・生徒のデジタル活用について(事業報告)
8	3月5日(木)	一年間のまとめ

V 研修事例（実践研修）

【テーマ】「文字だけに頼らない、分かりやすい表現の仕方や工夫」

児童・生徒指導の一層の充実、教職員の職務の達成感向上、保護者や関係機関との適切な連携等、校長が推し進める経営は、多岐にわたっている。

今回は教育課題の一つ「子供を取り巻く社会の多様化」に着目し、国際化が進む現在、言葉への配慮が必要な児童・生徒・保護者への対応、学校からの情報提供の在り方を改めて見直し、より外部に伝わりやすい文書の作成方法や配慮点等について考え、学校経営の改善に資することを目的に企画した。

また、課題解決を一層図るため、受講対象を副校長の他、主幹教諭まで拡大し、在京外国人生徒入試対応を行っている12校の都立高校にも広報した。

令和7年8月4日(月)午後 : 講師

一般社団法人やさしいコミュニケーション協会 代表理事 黒田 友子 氏

を招聘し、「わかりやすい言葉(やさしい日本語)のスキルを獲得し、情報発信の配慮点を学ぶ」を副題に、①やさしい日本語とは ②優しい日本語のポイント3S ③やさしい日本語と翻訳機等、知識理解の習得に留まらず、【保護者役】【学校役】とペアワークを行うことで、深い学びを体得した。

やさしい日本語のポイント“3S”

Short Simple Straight
みじかく かんたんに ほっきりと

WORK 3 かんたんに見よう

プリントはお持ちですか。	
個人面談を行います。	
ちゃんと宿題をしてください。	
アレルギーはありますか。	

ワークでは例示「学校で日常的に使っている言葉」を再考することで、「やさしい日本語は(国際化への)言語の配慮点の習得、コミュニケーションの改善・活性化だけではなく、

相手を尊重する・思いやる」関係の構築が、根幹にあることを改めて実感した。

受講者を上述のように拡大したことも、学校経営計画の実現への一翼となり、校長のリーダーシップのもと、組織的・能動的に解決を図る道筋となった。

【講師紹介】

東京都つながり創生財団主催「やさしい日本語リーダー養成研修」厚生労働省主催「外国人患者受け入れ医療コーディネーター研修」やさしい日本語の講師を担当

VI 研修の成果と課題

東京都から研究指定を受けた学校の事例を主に報告したことで、先進的な実践をいち早く共有できた。また、情報共有を進める過程で各校の取組や抱える課題を把握し、自校の経営を見直し、紹介された取り組みを自校に取り入れて運営方針や考え方に反映させるなど、専門性と学校の教育力の向上に役立てることができた。

一方、校長連絡会終了後の開催で時間が限られていたため、実践報告への質疑応答やグループごとの意見交換など、深い情報共有を行う時間を十分に確保できなかった。

夏季休業中に招いた講師による「文字だけに頼らない、わかりやすい表現の仕方や工夫」をテーマとした実践研究会は、具体性と有意義さが際立っており、今後の児童・生徒への指導場面で大いに参考となり、多くの指導場面で生かすことができる内容であった。今後も現状に応じて適切な教育課題を取り上げ、知的障害特別支援学校の教育充実・発展を目指す研修を継続していく。

<令和7年度連絡先>

団体名		東京都知的障害特別支援学校長会主催研修会
代表者	所属	東京都立羽村特別支援学校
	職 氏名	校長 井上 一仁
	連絡先	042-554-0829
事務局	所属	東京都立田園調布特別支援学校
	職 氏名	校長 川崎 淳子
	連絡先	03-3721-6861
団体ホームページ	URL	
	二次元コード	